令和8(2026)年度アクティブ・ラーニングプログラム一覧(春学期開始)

2026年3月26日
教務課

活動学期:春学期

No.	プログラム名	カテゴリ	プログラムの概要	単位認定基準	担当教員	認定単位数	対象・募集人数	プログラムへの参加方法	実施曜日時限・場所
1	CGクリエイション	ICT	3DCGを自由に使いこなせるよう、目標を定め、発表できるまでにする。 基本的に週1回1コマ	【認定基準】 1)週1回の集合時に学習意欲をもって参加していた。 2)事前・事後学修を含み、与えられたテーマをこなし、成果を出した。 3)本講義の目的を理解し、到達目標に至ることができた。 上記の内容を含め、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。 〇評価配分 週1回の集合時にテーマに沿って設定した自分の課題を(事前事後学修成果を含めて)よくこなしている(30%)、積極的発言など(20%)、最終成果への貢献(50%) ・認定される科目名: 「アクティブ・ラーニング実践」	新西　誠人 菅沼　睦 出原　至道 他ICT関連教員数名	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 学年を問わず、希望があれば何人でも。 ただし、最大30名ぐらいまでが理想。	説明会を4月9日4限、241教室にて行うので参加すること。説明会に参加できない場合には、第2講までに、担当教員に連絡し、説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 木曜日4限 ＜教室＞ 241教室
2	教職生対象　板書・視覚表現入門	その他(教職実践)	本プログラムでは、教職課程履修生を対象に、板書・手書き記述能力等について実践的に学び、学校現場において求められる「読みやすく、整った、指導的配慮のある文字表現」を身につけることを目的とする。 　全15回の授業を通して、可読性・速記性・論理構造を損なわない文字表現の反復練習を通して「使える手書き能力」を身につけ、また板書構成力、教師として必要な視覚的伝達力の基礎など学校現場で必要な記述力の育成を目指す。	【認定基準】 ① 授業での実技参加状況 ② 実技成果物(板書・ペン習字などの作品)の提出状況 ③ 最終レポート	齋藤S.裕美 齋藤　正(書道講師/本学入試アドバイザー)	2	【対象】 2～4年次 【募集人数】 20人	説明会を4月10日(金)2限、552教室にて行うので参加すること。	＜実施曜日・時限＞ 金曜日2限 ＜教室＞ 552教室
3	社会調査のための基礎知識習得とデータの活用	その他(調査研究)	本講は社会調査士認定科目のA群に該当し，社会調査における基本的な内容について習得を目指すものである。 この講義は，社会調査の目的と方法についての基礎的な知識の習得を目指して実施するものである.調査の必要性やアプローチの方法，標本抽出法などのさまざまなデータ収集法について，その特性を学び，適切な調査設計を行えるようにする. PBL型で調査の重要性や調査方法の特性について理解する。	【認定基準】 毎回の講義での課題提出が10回，かつ最終課題作成・提出。	加藤　みずき	2	【対象】 3～4年次 ※社会調査士の資格取得を目指す意思があり，かつ「マーケティング・リサーチ」の単位を取得済の3年生以上の学生のみを受講対象者とする。 【募集人数】 若干名	本科目は社会調査士認定科目A群に該当する。社会調査士の資格取得を目指す意思が明確にあり，かつ2025年度までに「マーケティング・リサーチ」の単位を取得済の3年生以上の学生のみを受講対象者とする。 上記の条件に該当し，履修を希望する場合は，担当教員に連絡のうえ4月9日(木)の初回講義で説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 木曜日3限 ＜教室＞ 234教室
4	世代継承プログラム_春	地域研究	本学は2017年度～2019年度にかけて研究ブランディング採択事業として「大都市郊外型高齢化に立ち向かう実践的研究」に取り組んできた。採択期間終了後においても、地域社会に寄与する大学として継続してジェロントロジー(高齢化社会工学)に取り組んでいる。その活動の一環として「地域住民のコミュニティの場を大学が提供する」とともに「多摩地域に数多く存在する既に退職した日本の高度経済成長を牽引した高齢者の活力を、学生世代の若者に継承する」ことを行う。 本プログラムでは、プログラムに参加する学生が、本学が開講する公開講座(リレー講座)を聴講する高齢者の交流の場(サロン)を設けるとともに、その交流の中に学生自身が参加して高齢者からの活力の継承を受ける。また、高齢者のこれまでの人生の軌跡や遺したい想いデータとして蓄積する。 本プログラムは2018年度より継続していたが、グループによる近距離での会話を前提とするため2020年度以降はコロナ感染防止の観点から開催を見送っていた。2025年度よりこれを復活させ、2026年度も継続する。	【認定基準】 1)リレー講座後(木曜5時限)にT-Studio2階(予定)で実施する交流サロンの運営に参画し、高齢者と交流する 　2)高齢者との交流、特定高齢者の軌跡や想いを記録する 上記の内容に、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。	小林　英夫	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 15名程度	4月9日(木)5時限にT-Studio2階でオリエンテーションおよび参加受付を行う。 4月15日(水)までに参加許可者を決定する。 活動時間が木曜日の4,5時限のため、木曜4時限に特別講座Ⅰを履修しているか他科目を履修していないことと、木曜5時限にホームゼミが無いことを参加の条件とする。	＜実施曜日・時限＞ 4月16日より特別講座講師登壇日の木曜4,5時限に行う ＜教室＞ T-Studio 2階
5	高難度中文・関係論文の輪読 Ⅰ	その他(中国語能力向上・中国理解)	中国語能力検定には世界規模のものとして漢語水平考試(中国語発音はHan-yu Shui-ping Kao-shi、その頭文字をとりHSKと呼称)が存在する。このHSK試験は中華人民共和国の教育部(日本の文部科学省に相当)の管下にある中華人民共和国国家漢語国際推広領導小組弁公室(略称は国家漢弁)が実施しており、世界最大規模を誇る。このうち最高難度である6級(最低難度は1級)長文読解問題は特に難問として知られる。また、本学の学部学生が"旧帝"レベル大学院を目指す場合、高度なレベルを求められる語学中国語や専門科目古典中国語に挑むことになる。 そこで本プログラムでは、中国のパワーエリートむけ経済誌の時事解説記事や古典中国語(いわゆる漢文)の長文読解を輪読形式で実施していく。輪読とは、学生一人一人が輪転して読解し解釈を発表した上で互いに解釈の相違を討論する形式のアクティブ・ラーニングである。今次プログラム参加学生は、課題の高難度中国語文について事前予習として日本語翻訳および注釈付与を試み、当日に予習成果の発表を行い、参加学生による相互討論を経た上で、列席の教員が最終添削を行う。	【認定基準】 非常に読解困難な中国語文について、世界最大規模の中中辞典(中国語を中国語で解説する辞典)や関連する資料を利用し読解を試みる。2021年秋学期・2022年度・2023年度では、学生は5行につき10時間(600分)ほどの予習を必要とした。発表につき60分、また事前学修につき600分、事後学修につき30分、合計で690分の学修を15回にわたって実施し、合計10350分(172時間30分)の学修を目指す。テキストの難度は教員が自負するものではあるが、事前学修は学生の個人的な努力によるものなので、正課1回90分から換算し2単位を付与したい。	水盛　涼一 パートル	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 5名程度	説明会を4月14日(火曜日)4限、図書館3階奥の「ファミレス席」付近にて行うので参加すること。	＜実施曜日・時限＞ 火曜日4限 ＜教室＞ 図書館
6	社会工学研究会インターゼミ Ⅰ	その他(学長直卒の調査研究グループ活動)	社会工学研究会(インターゼミ)とは、本学寺島実郎学長が直接指導にあたる研究会であり、学部(経営情報学部・グローバルスタディーズ学部)および大学院(経営情報学研究科)の垣根を越えたゼミ活動をおこなう。なおインターゼミは2年次以上学生につき履修可能科目として設定されているが、学生の成長という要素にかんがみ、特別に1年次学生へのアクティブラーニング実践科目として履修を可能とする(2025年度に開始。なお制度において2021年以前に回帰するもの)。 さて、インターゼミは九段サテライトキャンパス(〒102-0073 東京都千代田区九段北1-9-17寺島文庫ビル3階)で土曜日5限時間帯(16時20分から17時50分、ただし15時45分ごろの参集が望まれる)に開催される。このうち前半の第1部では参加学生による情報共有と学長による週間講話が、後半の第2部では上記「担当教員」のほかグローバルスタディーズ学部教員が加わり学生とともに多摩学、アジアダイナミズム、サービスエンターテインメント、デジタルトランスフォーメーションの各班で研究活動を行う。 なお第2部は各班学生の主体的な学修の成果発表の場であり、およそ先行研究や各種資料による文献研究(literature study)、また現地に出向いて対象に直接ふれる田野調査(field work)といった課外活動に基づく。参加学生のうち学部生はおよそ20歳前後となるが、大学院生はMBA取得を目指す社会人が主体である。 本プログラムでは調査分析および研究提案という作業につき学生みずからが当事者となって社会工学的思考法を身に着けることを目標とする。もちろんその際には学長をはじめとする多数の教員が参与し、学生の成長へ助力していく。	【認定基準】 文献研究と田野調査はともに困難な内容である。少なくとも水盛の参加した2017年以来、学生は学期末の担当部分の論文作成について10時間(600分)ほどの予習を必要とした。その他に上記の班内各週発表でそれぞれ事前・課内・事後の3種に90分ずつの学修を見込む。ここで合計3300分(55時間)の学修を目指す。インターゼミの難度は教員が自負するものではあるが、事前学修は学生の個人的な努力によるものなので、正課1回90分から換算し2単位を付与したい。	金　美徳 久保田　貴文 杉田　文章 髙橋　彰 寺島　実郎 パートル 平石　隆司 平山　敏弘 水盛　涼一 姚　静雅 (五十音順)	2	【対象】 1年次 【募集人数】 5名程度	説明会を4月9日(木曜日)昼休み、112教室(2限3限にて中国語を実施している教室)にて行うので参加すること。この説明会に参加ができない場合は第2講(4月18日土曜日)実施の3日前(すなわち4月15日水曜日)までに担当教員である水盛に電子メール(mizumori-r@tama.ac.jp)へ連絡して対面で説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 土曜日5限 ＜教室＞ 九段サテライトキャンパス(寺島文庫ビル3階)
7	明日の教育を考える(次期学習指導要領へのパブリックコメント)	教育機関連携	現在、学習指導要領改訂が進められている。学習指導要領は、日本では教育課程の基準とされており、幼稚園から高等学校まで、何をどのように教えるかが書かれている、各教科や領域の授業の内容を決めるものである。このプログラムでは、次期改訂に向けて、今後10 年どのような学習指導要領が望ましいかを考える。具体的には、このプログラムから中央教育審議会へパブリックコメントを提出する。 【流れ】これまでの学習指導要領の変遷を学ぶ→海外の教育を知る→現代の課題を考える→学習指導要領はどうあるべきかを考え、パブリックコメントを提出する。 ＊なお、パブリックコメント募集時期によって、講義内容が前後することがある。 ＊教職課程を履修している学生にとっては重複する講義もあるが、日本の教育に意見できる機会であり、積極的に参加してほしい。	【認定基準】 1)12 回以上講義に参加すること 2)事前・事後学修を含み、与えられたテーマをこなし、成果を出した 　具体的には、毎回のワークを提出すること 3)本講義の目的を理解し、到達目標に至ることができた 上記の内容を含め、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。	杵渕 洋美	2	【対象】 2～4年次 【募集人数】 最大30名程度	説明会を①4月8日(水)昼休み、112教室　②4月10日(金)昼休み、242教室にて行うので参加すること。 いずれの説明会にも参加できない場合は、個別に第3講までに、担当教員に連絡し、説明を受けること。	＜実施曜日・時限＞ 金曜日4限 ＜教室＞ 121教室